

国語科学習指導案

指導者 中西 果織

- 1 日 時 令和6年11月16日(土) 第1校時(9:00~9:45)
- 2 学年・組 小学校第4学年1組 計31名(男子15名, 女子16名)
- 3 場 所 小学校第4学年1組教室
- 4 単 元 名 「友情のかべ新聞」名探偵になってつながりを考えながら読もう

(光村図書・小学校国語4年)

5 単元について

本校の国語科教育では、文学という言語表現に触れる中で、これまでの自分の経験を想起したり、味わったことのない未知の体験を想像したりしながら自分自身と向き合っていく中で、他者に対して自分の思いを伝えるために自分の言葉をつくり、豊かに言葉を紡ぎ出す姿を目指している。白坂(2018)は『『子どもの論理』で創る国語の授業－読むこと－』(明治図書)において、「文学作品の読みの大きなねらいは、豊かな文学体験をさせることであり、自力で物語を読み、作品世界を意味づけたり価値づけたりする力を育てること」としている。また、「言葉のはたらきや文の効果をとらえて場面の移り変わりや人物の変容を読み、一人ひとりの解釈を交流し合うことで、自分の読みを確かめ豊か読みへと変えていくことをねらいとする。」と述べている。齋藤(2024)は「これからの時代に身につけたい国語力」(主婦の友)において、国語力とは「ふしぎに思ったことを調べて、知識を深めていく力。手に入れた知識を使って、不便を解決する力。自分の考えをちゃんと相手に伝えられる力。」としている。

本単元は、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて想像しながら読む能力を育成するために、叙述や場面などのつながりを見付けながら読み進め、発見したことや意味付けて考えたことを伝え合うことを主なねらいに設定した。本教材「友情のかべ新聞」は、はやみねかおるによって教科書のために書き下ろされた新教材であり、改訂に伴って初めて掲載されたミステリー作品である。ミステリーを読む際、物語の伏線を見付け、不思議な謎を解いたり、人物や結末と結び付けて意味を考えたりすることができる。また、他者の考えに触れることで、自分の推理や考えを見直すために、根拠となる叙述を探して何度も繰り返し読み、改めて解釈することができる。本教材には、推理のための伏線が周到に用意されており、伏線のつながりを考えたり、発見したことを伝え合うおもしろさを感じたりすることに適した教材である。

本学級の児童は、これまでに言葉や内容の書かれ方に着目して出来事や人物の気持ちの変化を捉えたり、物語のおもしろさを見付けて自分の考えや感想を交流したりする学習を行ってきた。国語科の学習に対する意識調査を行った結果、8割の児童は国語科や物語文の学習が好きであり、その理由として、物語の世界に入り、登場人物の気持ちや物語の疑問を考えていくことの楽しさを挙げている。2割の「あまり好きでない」と回答した児童は、長い文章を読むことに抵抗感があり、登場人物や作者、自分の気持ちを考えて発表することに苦手意識をもっている。しかし、自分の考えを書いたり伝えたり、友達と意見を聞いたり話し合ったりすることに關しては、9割程度の児童が「好き」「わりと好き」と回答しており、考えを比較したり、新たな考えを導き出したりすることに楽しさや意味を感じている。そのため、児童が意欲的に考え、主体的に伝えたいと思うことができるよう、ミステリーの特徴を活かして必然的に登場人物の気持ちや言動に着目しながら、「なぜ」を解き明かすための手がかりとなる叙述のつながりを考えられるようにすることで、様々な捉え方があることに気付かせ、自信をもてるようにしていきたい。また、実生活の中で好きなものや考え方が正反対であったり、話し合い活動で意見が対立したりすることがある。学活や道徳の時間も活用して日常的に、互いの言動を振り返る場を設けているが、言い争いになることもあるため、本教材の学習を活かして仲良くするための考え方や方法にも触れ、相手の

気持ちを考えたり、様々な思いや考えを受け止めたりしながら話し合う力を育てたい。

指導にあたっては、導入時に杉山亮の「消えたパンダ金魚」を扱い、ミステリーを読み解くおもしろさを味わわせたり、作者の言葉や様々なミステリーのジャンルの本を紹介したりするなどの「しつらえ」を設定し、意欲的に学習や読書に取り組めるようにする。また、「東君」と「西君」は本当に仲良くなったのか、「ぼく」の推理は正しいのか、二人が作るかべ新聞はどのようなものになるのかなど、児童から生じる疑問を「なぞ」として位置付け、必然性をもたせて手がかりとなる叙述を主体的に探すことができるようにする。「なぞ」を解き明かす際には、「ぼく」の視点で時系列に沿って書かれている「東君」と「西君」の関係性や出来事を「捜査メモ」として思考ツールに整理して考えさせることで、「ぼく」の推理を可視化しながらつながりや文章の構成を構造的に捉えられるようにする。そして、「捜査会議」を開き、「ぼく」の推理の検証を行うことで、新たなつながりや意味を見いだしたり、発見したことや解釈したことを交流したりしながら、自分の考えの広がりや深まりを感じさせたい。さらには、教科書に紹介されているミステリーなどの並行読書を行い、気になる場面や心に引っかかる叙述に着目しながら、登場人物の様子や気持ちの変化、つながりを考えて物語を読む力を育てるとともに、読書の幅を広げたり、読みの解釈を語り合ったりする児童を増やしていきたい。

6 単元目標

- (1) 幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。
【知識・技能】
- (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、自分の考えを自分の言葉でまとめることができる。
【思考・判断・表現】
- (3) 積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けながら想像して読み、感じたことや考えたことを友だちと伝え合おうとする。【主体的に学習に取り組む態度】

7 指導計画（全9時間）

次	時	学習内容
0	1	推理小説を読み解く体験を行い、伏線のつながりを考える。
1	2	「友情のかべ新聞」の範読（朗読音声）を聞き、不思議に思った「なぞ」を中心に一次感想を交流して、単元の課題を設定するとともに、学習の見通しをもつ。
	3	「ぼく」の視点で語られていることや場面ごとの大まかな内容を確認するとともに、「捜査メモ」の書き方を考え、ミステリー作品の並行読書を進める。
2	4 5	「なぞ」を解くために、「東君」と「西君」の特徴や行動、出来事などを、つながりを考えながら「捜査メモ」に整理し、「捜査会議」を通して関係性の変化を捉える。
	6	「ぼく」の推理を「捜査メモ」に書き込み、「捜査会議」において推理と根拠の結び付きを考えながら妥当性を検討する。（本時6／9）
3	7	今後の「東君」と「西君」の関係やかべ新聞の内容などの「なぞ」について考える。
	8	物語のつながりのおもしろいところを中心に二次感想を書いて交流する。
4	9	並行読書していたミステリー作品のおもしろいところを紹介し、学習のまとめをする。

8 本時の目標

「ぼく」の推理の手がかりとなる叙述（伏線）を見付け、つながりを考えることを通して、登場人物の気持ちや関係の変容を捉え、自分の考えをまとめることができる。
【思考・判断・表現】

9 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な児童・生徒の姿
Ⅲ	手がかりとなる叙述を見付け、つながりを考えることを通して、登場人物の気持ちや関係の変容を捉え、友達の考えを受け入れたり、自分の生活や経験と結び付けたりして、自分の考えを捜査メモに構造的にまとめている。
Ⅱ	手がかりとなる叙述を見付け、つながりを考えることを通して、登場人物の気持ちや関係の変容を捉え、友達の考えや自分の考えとともに捜査メモにまとめている。
Ⅰ	手がかりとなる叙述を見付け、つながりを考えることを通して、登場人物の気持ちや関係の変容を捉え、捜査メモにまとめている。
手立て【関連する教師の資質能力】	
○ 児童の一次感想から学習課題となる「なぞ」を設定し、「捜査メモ」に整理する活動を取り入れることで、物語を読む必然性をもたせ、「捜査会議」において叙述のつながりを考えながら、友達の考えや自分の考えを言葉豊かにまとめることができるようにする。【授業構想力】 ○ 教師はファシリテーターとして児童の発言を構造的に整理する中で、児童の反応や様子に応じてつながりを意識できるように発問したり、評価したりし、児童に読みの深まりや広がりを感じさせることができるようにする。【授業実践力】	

10 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. 前時までの学習を振り返る。 ・正反対で言い争いばかりして、仲が悪かった「東君」と「西君」が言い争わなくなった。 ・「東君」と「西君」が二人でいるようになった。 ・「東君」と「西君」が相手のせいになかった。 2. 本時の課題を確認し、自分の考えを話し合う。 ○ どうして「東君」と「西君」が仲良くなったのだろうか？	○ 第1次に児童から出た「なぞ」やこれまでに作成した各自の「捜査メモ」を共有し、つながりを考えることを価値付け、学習への意欲を高める。 ○ 「捜査メモ」に叙述を基に「ぼく」の推理を書き込ませることによって、伏線のつながりを捉えることができるようにする。
「ぼく」の推理を「捜査メモ」に整理し、手がかりとなる根拠を見付け、正しいのか考えよう。	
・「青色」のインクが掲示板に付いたよごれを隠してから、お互いを監視し合うような感じになったけど、一緒にいる内に、お互いのことを知ることができて、自然と仲良くなっていった。 ・今までより、お互いを見るようになって、相手のよさを感じるようになったのだと思う。 ・一緒にいて、お互いの好きなことを経験してみることによって、元々息が合っていた部分がより強くなって二人の楽しさを感じた。 ・褒められたから嬉しくなったり、オススメを紹介してもらって興味がわいたりしたので、仲がよかった。 ・今までは、相手に反対して言い争ってばかりだったけど、お互いに歩み寄ろうとしている。 ・「無理に仲良くなろうとしたんじゃない。」と書いてあるから、歩み寄ろうとしたのかは疑問。	○ ICTを活用して「捜査メモ」を共有しながら「捜査会議」を開き、「ぼく」の推理の手がかりとなる叙述を発表し合うことで、再度叙述に着目して物語を読み返し、新たな発見や解釈が生まれることに気付いた児童を評価し、そのおもしろさを全体で共有する。 ○ 「ぼく」が展開している推理のつながりを板書する際には、二人の性格や好み、様子や言動に基づいていることを分類したり、事実と推測を明らかにしたりしながら整理してまとめ、児童が同じような事柄の叙述や疑問に思わせるような言動に着目できるようにする。

3. 話し合ったことを基に、「ぼく」の推理の妥当性を吟味し、自分自身の考えをまとめる。 ○ 「ぼく」の推理は正しいと言えるだろうか？ ・ ぼくが思い切って伝えと、二人はうなだれて認めていたので、正しいはず。 ・ 「ぼく」だけが気付いた油性ペンの「なぞ」が気になっていたから「かべ新聞」をよく見て考えていて、「ぼく」の放課後の経験も入れて推理しているのだから、合っている感じがする。 ・ 「ぼく」の推理はこれまでの出来事とちゃんとつながっているから正しいと思う。 ・ プリンを取り合わなかったのは、食欲がなくなったからと言うのは根拠がなく、特に好きなんじゃないと書いてあったから、変に争いたくなかったのだと思う。 ・ いっしょのことを経験する時に相手のことが分かり、仲良くなったことがぼくにもあるから、推理に納得する。 4. 次の時間の見通しをもつ。	○ 「ぼく」の推理について友達の考えも聞きながら、複数の手がかりを見付けたり整理したりした後、再度つながりを考えて根拠に説得力があるかどうかを検討できるようにする。 ○ 正しいか正しくないか結論出すのではなく、叙述を基に話し合うことを通して、納得できる部分とよく分からない部分があることに気付くことができるよう、適宜児童の考えを確認しながら進める。 ○ 登場人物の気持ちや場面のつながりを考えながら発言できていることを評価し、複数の叙述を基に読み取る力を価値付ける。 ◆ 「ぼく」の推理の手がかりとなる複数の叙述のつながりを考えながら自分の考えをまとめている。 【思考・判断・表現】 ○ 児童から挙がっている「なぞ」について、まだ解決できていないものを確認する。
---	--

【引用・参考文献】

白坂洋一編著・香月正登・大澤八千枝著（2018）『『子どもの論理』で創る国語の授業－読むこと－』明治図書
 田中実・難波博孝・須貝千里編著（2018）『第三項理論が拓く 文学研究／文学教育』明治図書
 難波博孝編著（2024）『教科書1／4改訂対応版 国語新教材 全授業のつくり方＆ワークシート』学芸みらい社
 齋藤孝著（2024）『これからの時代に身につけたい国語力』主婦の友
 光村図書（2024）『小学校国語 学習指導書 4下はばたき』光村図書
 文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』東洋館出版社